

MystReal - ホワイトペーパー 4.0

(Whitepaper 4.0)

モジュラー型ソブリン トークン •(Modular Sovereign Token)

プロフェッショナル版 - 実体経済と Web3 (Professional Version - Real Economy & Web3)

本ドキュメントのフランス語版が優先されます。

1. エグゼクティブ サマリー •(Executive Summary)

MystReal は、Web3 の力を現実世界の価値創造と結びつけるために設計されたトークンである。

当プロジェクトの目的は、ブロックチェーンが透明性、ガバナンス、および調整の基盤として機能し、それが具体的な経済活動に適用される持続可能な経済を確立することにある。

Myst エコシステムは、以下の 3 つの相互補完的な柱を中心に構成されている：

- **MYSTR トークン**: 固定供給量の BEP-20 トークンであり、参加、ガバナンス、およびエコシステムへのアクセスに使用される。
- **MystReal DAO**: コミュニティの意思決定機関であり、主要な方針や重要なパラメータに関する投票を担当する。
- **Myst Capital (ミスト キャピタル)**: 物理的な世界で経済活動を運営することに特化した実体構造（持株会社および子会社）である。

Myst Capital を通じて運営される活動は収益を生み出す。純利益の一部は**10%のロイヤリティ (Royalty)**の対象となり、MystReal エコシステムに還元される。

このロイヤリティは以下の用途に使用される：

- トークンの流動性強化。
- バイバック（買い戻し）およびバーン（焼却）の実施 (Buyback & Burn)。
- ガバナンス メカニズムおよびコミュニティ報酬の支援。
- 開発、管理、および監査への資金提供。

このモデルは、市場の力学のみに依存することなく、実体経済活動が MYSTR トークンの堅牢性に貢献する価値のサイクルを創出する。

MystReal は、透明性、運営規律、そしてコミュニティ ガバナンスを組み合わせることで・、現実世界と連携した Web3 プロジェクトのベンチマークとなることを目指している。

2. 課題と市場機会 (Problem & Opportunity)

2.1 Web3 の現在の限界

既存の Web3 プロジェクトの多くは、3 つの主要な弱点を抱えている：

1. 実質的な有用性の欠如 多くのトークンは、いかなる生産活動や具体的なサービスとも関連していない。その存在は主に供給、需要、そして一時の流行（ハイブ）に依存している。
2. 脆弱な経済モデル 現実的かつ反復的な収益が存在しない場合、プロジェクトは絶えず新規資本の流入に依存することになり、エコシステムが不安定になる。
3. 実体経済との乖離 現実世界での活動に資金を提供したり、運営したりする暗号資産プロジェクトは極めて少ない：

- ・ インフラストラクチャの欠如。
- ・ 作業場、店舗、またはサービスの欠如。
- ・ 生産的なプロジェクト（エネルギー、産業、工芸）の欠如。
- ・ 地域経済への測定可能な影響がほとんどない。

これらの要因が重なり、Web3 全体に対する認識を弱め、機関投資家や長期ユーザーの信頼を制限している。

2.2 機会： Web3 と実体経済の架け橋

対照的に、実体経済は以下に依存している：

- ・ 膨大な量の実物資産。
- ・ 具体的な収益を生み出す活動。
- ・ 資金調達、近代化、およびデジタル化への恒久的なニーズ。
- ・ 多様なセクター（工芸、サービス、商業、生産用不動産など）。

しかし、この経済は往々にして以下の状態にある：

- ・ 透明性の欠如。
- ・ 中央集権的。
- ・ 小規模な投資家コミュニティにとってアクセスが困難。

したがって、以下のようなモデルのための戦略的な余地が存在する：

- ・ ブロックチェーンの透明性とトレーサビリティを活用する。
- ・ 資金調達の決定を中心にコミュニティを団結させる。
- ・ 経済的成果の一部を構造化された Web3 エコシステムに還流させる。

2.3 なぜ今なのか？いくつかのトレンドが収束している：

- ・ 投資家は、識別可能で測定可能な活動に関連したプロジェクトを求めている。
- ・ 規制（特に欧州）は、明確さ、透明性、およびユーザー保護を重視している。
- ・ Web3 コミュニティはより成熟し、持続可能性の概念に対してより敏感になっている。
- ・ 「現実資産」(RWA: Real World Assets) の概念が暗号資産業界で進展している。このような背景は、Web3 と実体経済の接点に正確に位置する **MystReal** のようなプロジェクトにとって、絶好の機会（ウインドウオ・ブ・オポチュニティ）を生み出している。

2.4 **MystReal** のポジショニング

MystReal は、以下のようなエコシステムとして自らを位置づける：

- ・ ブロックチェーンを使用して経済の流れを組織し、追跡する。
- ・ 実体構造 (**Myst Capital**) に依存して具体的な活動を展開する。
- ・ トークンの堅牢性とコミュニティへの参加を促進するメカニズムの形で、利益の一部を再分配する。
- ・ **MystReal DAO** を通じてガバナンスをモデルの中心に据える。

したがって、**MystReal** は従来の Web3 の限界に対する構造的な回答であり、次世代のハイブリッド・モデルへの入り口となることを目指している。

3. プロジェクト アーキテクチャ •(Project Architecture)

MystReal のアーキテクチャは、3 つの主要な柱の上に構築されている。

3.1 MYSTR トークン (The MYSTR Token)

- ・ 規格: BEP-20 (Binance Smart Chain)。
- ・ 総供給量: 1,000,000,000 MYSTR。
- ・ 小数点以下: 18 桁。
- ・ タイプ: 固定供給、非インフレ型。
- ・ バーン（焼却）メカニズム (**Burn**): バイバック（買い戻し）操作の一部により、循環供給量を恒久的に削減することが可能である。

MYSTR トークンはエコシステムの基盤である。DAO および Myst Capital によって実装されるガバナンス メカニズム、コミュニティ・ツール、および参加プログラムへのアクセス権を付与する。

3.2 MystReal DAO

MystReal DAO（分散型自律組織）は、プロジェクトのコミュニティ ガバナンス機関である。その主な任務は以下の通りである：

- ・ 主要な戦略的指針（ロイヤリティのパラメータ、適格なプロジェクト カテゴリ、管理方針）に対する投票。
- ・ エコシステムのリソースの一部の配分に関する決定。
- ・ プロトコルまたは経済構造の主要な変更の承認または拒否。
- ・ コミュニティに対する透明性と説明責任の枠組みの確保。

投票権および提案権へのアクセスは、MYSTR トークンの保有、および場合によっては特定のプログラム（ステーキング、委任など）への参加を条件とする。

3.3 Myst Capital (ミスト キャピタル・)

その運営戦略の枠組みにおいて、Myst Capital は、必ずしもプロジェクトをゼロから (*exnihilo*) 創出することのみを目的とはしていない。その活動の大部分は以下で構成される可能性がある：

- ・ 既に運営実績のある既存企業の買収。
- ・ 過半数または重要な株式持分の取得。
- ・ そして、日々の運営を既存のチームまたは委任されたマネージャーに委託すること。

このモデルにより、Myst Capital は以下のことが可能となる：

- ・ 初期の段階から実際の収益源を確保する。
- ・ 新規事業の立ち上げに伴う運営リスクを軽減する。
- ・ 純利益の創出を加速させる。
- ・ そして、計画されたロイヤリティを MystReal エコシステムのために、より迅速に適用する。

したがって、Myst Capital は、買収、戦略的監督、および管理委任を組み合わせた、構造化された投資運営者として機能する。

3.4 創設者報酬 (2% 成功報酬)

MystReal の創設者は、戦略的ビジョンとエコシステムのグローバルな調整の責任者として、

Myst Capital を通じて運営される活動のパフォーマンスを条件とした報酬を受け取る。この報酬は、Myst Capital の枠組みの下で運営されるプロジェクトから生じる純利益に対する **2%の成功報酬 (Performance Fee)** の形をとる。これは特に以下をカバーする：

- ・ グローバル戦略の定義と調整。
- ・ プロジェクトの選定と構築。
- ・ リスクおよびコンプライアンスの監督。
- ・ パートナー・ネットワークの開発。
- ・ 外部の利害関係者に対するエコシステムの代表。

この報酬は：

- ・ MystReal エコシステムに割り当てられたロイヤリティ率に影響を与えない。
- ・ ガバナンスおよび流動性メカニズムに割り当てられたシェアを減少させない。
- ・ MYSTR トークン保有者の持分を希薄化しない。

3.5 共同創設者 (オプション、追加 **1%**)

MystReal および Myst Capital の創設、構築、および管理に持続的に貢献する積極的な共同創設者が加わる場合、純利益の最大 1%までの追加報酬が規定される場合がある。

この条項は：

- ・ 共同創設者のプロフィールが正式に統合された場合にのみ有効化される。
- ・ 貢献度および長期的なコミットメントの基準によって制限される。
- ・ コミュニティおよびパートナーに対して透明性を持って伝達される。

4. トークノミクス 4.0 (Tokenomics 4.0)

4.1 一般パラメータ

- ・ 名称: MystReal
- ・ シンボル: MYSTR
- ・ ブロックチェーン: Binance Smart Chain (BEP-20)
- ・ 総供給量: 1,000,000,000 MYST
- ・ タイプ: 固定供給 (プロトコル内で追加のトークン生成は計画されていない)

4.2 想定される供給配分

運営上のニーズおよび監査のフィードバックに基づいて調整される可能性がある参照配分は、以下の通りである：

- ・ 戰略的トレジャリー（国庫）および長期準備金: 40%
- ・ **Myst Capital** を通じた実体経済開発: 20%
- ・ **DEX / CEX** 流動性および市場の安定性: 15%
- ・ プレセール / 初期資金調達: 10%
- ・ ガバナンス、**DAO**、および参加プログラム（ステーキング、インセンティブ）: 10%
- ・ マーケティング、パートナーシップ、およびエコシステム開発: 5%

これらの配分の一部は、セクション 5 で詳述されるベスティング（権利確定）スケジュールの対象となる。

4.3 各配分の役割

- ・ 戰略的トレジャリー：プロジェクトの持続可能性を確保し、長期的なイニシアチブを支援し、主要な機会に対応することを可能にする。
- ・ **Myst Capital / 実体経済**：DAO のガバナンスと整合した方法で、具体的な活動（設備投資、運営費、買収、生産設備の近代化など）の開発資金として使用される。
- ・ 流動性：取引の安定性を確保し、極端な価格変動を制限するために、主に初期段階で資金提供され、時間の経過とともに強化される。
- ・ プレセール / 資金調達：法的および技術的なセットアップ、初期チーム、および最初の実世界のプロジェクトの立ち上げ資金として使用される。
- ・ ガバナンスおよびコミュニティ：関与、投票、調査、プロジェクト分析、およびガバナンスの質の維持に対する報酬として使用される。
- ・ マーケティングおよびパートナーシップ：プロジェクトの認知度向上、ネットワークの拡大、構造的な協力関係の構築、およびユーザー獲得の支援を目的とする。

5. ベスティング (Vesting) (12%)

5.1 ベスティングの目的

構造化されたベスティング スケジュールは、以下の目的で実施される：

- ・ 中長期的なトークンの安定性を保証する。
- ・ チーム、戦略的貢献者、およびパートナーを時間の経過とともに一致させる。

- ・ 運営の実態と相関しない大量のトークン放出を防止する。

総供給量の最大 12%がこのベスティングの対象となり、主に以下を対象とする：

- ・ 創設者および潜在的な共同創設者。
- ・ コアチーム (Core Team)。
- ・ 構築段階に深く関与した戦略的パートナー。

5.2 ベスティング メカニズム・

ベスティングは一般的な原則に従う：

- ・ クリフ期間 (**Cliff Period**): ベスティング対象のトークンが一切解除されない初期期間。
- ・ 段階的なロック解除: クリフ期間終了後、トークンは定期的（毎月または四半期ごと）に分割して解除される。
- ・ 総期間: ベスティング プロセスは、カテ・ゴリ（創設者、チーム、パートナー）に応じて、24 ヶ月から 36 ヶ月の指標となる期間にわたって行われる。

典型的なスケジュール例：

- ・ 6 ヶ月から 12 ヶ月のクリフ期間。
- ・ その後、18 ヶ月から 24 ヶ月にわたって線形に解除。

最終的な詳細（期間、頻度、カテゴリ）は契約書に記載され、DAO による承認または確認の対象となる場合がある。

5.3 ベスティングと運営報酬の区別

ベスティング対象のトークンは、月給ではなく、プロジェクトへの長期的な関与を表すものである。

運営上のニーズ（給与、報酬、外部サービスプロバイダー）は、以下によって資金調達される：

- ・ 様々な資金調達ラウンドで集められた資金。
- ・ 関連する場合、実際の活動から生じる収益。

この区別により、ベスティングの論理を維持しながら、プロジェクトの日々の運営を保証する。

6. ロイヤリティと実体経済 (Royalty & Real Economy)

6.1 ロイヤリティの原則

Myst Capital を通じて運営される活動が利益を生む場合、純利益が発生する。この結果に基づき、**10%**のロイヤリティ (**Royalty**) が MystReal エコシステムに配分される。このロイヤリティは、個人的なリターンの約束を構成するものではなく、現実世界と Web3 の世界との間の経済的な架け橋を形成するものである。これは、プロジェクトの経済構造全体を支援する論理の一部である。

6.2 ロイヤリティの分配

ロイヤリティは、以下の参照比率に従って使用される：

- ・ **MYSTR のバイバック (買い戻し) およびバーン (Buyback & Burn):** 一部は市場から MYSTR トークンを買い戻し、その後、恒久的に破棄するために使用される。これは、循環供給量を段階的に削減することに寄与する。
- ・ **流動性の強化:** 別の部分は、市場の厚みと取引の質を向上させるために、流動性プールを強化するために使用される。
- ・ **コミュニティ プログラムおよびガバナンス:** 少額の部分は、参加 (ガバナンス プログラム、プロジェクト分析、技術的または運営上の貢献) を支援するために使用される場合がある。
- ・ **開発、管理、および監査:** 一部は、エコシステムを保護し強化するための監査、コンプライアンス管理、および開発への資金提供に充てられる。

正確な比率は、ニーズおよびガバナンスの決定に基づいて、時間の経過とともに変動する可能性がある。

6.3 MystReal のグローバル経済への統合 ロイヤリティは、市場の個々の参加者の潜在的な収益を代替するものではなく、評価額を保証するものでもない。

その主な機能は以下の通りである：

- ・ トークンの構造的な堅牢性を支える。
- ・ エコシステムの信頼性を高める。
- ・ 実体活動のパフォーマンスとプロジェクト全体のダイナミクスの間に、具体的な関連性を生み出す。

6.4 既存活動の買収、保有、および管理受託

実体経済の流れの創出を確保し加速するために、Myst Capital は、創設、買収、および既存活動の管理受託を組み合わせた戦略を採用する。

Web3 と実体経済を結びつける戦略的枠組みの中で、Myst Capital は、特に以下のようないくつかの運営形態で介入することができる：

- ・ 新規活動の創出。
- ・ 既に運営実績のある既存企業の買収。
- ・ 過半数または少数株式の保有。
- ・ 特定の活動の管理受託。

このモデルにおいて、Myst Capital は指導および投資の構造体として機能し、日々の運営は現地のチーム、既存のマネージャー、または専門パートナーに委任することができる。

このアプローチにより、以下のことが可能となる：

- ・ より迅速な経済フローの創出。
- ・ 立ち上げ段階に伴うリスクの制限。
- ・ パフォーマンスの可視性の向上。
- ・ そして、ロイヤリティ メカニズムの・ 即時適用。

このように保有または監督される活動は、Myst Capital が運営するすべてのプロジェクトと同様の透明性、報告、および財務規律の要件に従う。

7. セキュリティ、透明性、およびラグプル防止 (Security, Transparency & Anti-Rugpull)

MystReal の設計には、当初から慎重さと保護の原則が組み込まれている。

7.1 ロックされた流動性 (Locked Liquidity)

流動性に充てられるトークンの大部分は、あらかじめ定められた期間、ロックされたプールに預け入れられる。目的は以下を回避することである：

- ・ 流動性の突然の引き出し。
- ・ 「ラグプル (Rugpulls: 出口詐欺)」に類似した行為。

不安定な流動性による信頼の喪失。

7.2 マルチシグネチャ管理 (Multi-signature)

主要な重要ウォレット（トレジャリー、Myst Capital、重要な操作）は、マルチシグネチャ管理下に置かれ、単独の人物の権限を制限する。

このメカニズムは：

- ・ 個人的なミスのリスクを低減する。
- ・ 内部ガバナンスを強化する。
- ・ 適切な管理慣行の遵守を促進する。

7.3 技術的および法的監査

計画されている監査には以下が含まれる：

- ・ スマートコントラクト（セキュリティ、重大な脆弱性の欠如、メカニズムの一貫性）。
- ・ 法的構造（適用される規制の遵守、特にトークンのコミュニケーションおよび分類の観点から）。

監査報告書は、入手可能になり次第、コミュニティおよびパートナーに対して透明性を持って開示される。

7.4 役割の分離

以下の間で明確な分離が維持される：

- ・ コミュニティ ガバナンス ・ (DAO)。
- ・ 運営の実行 (Myst Capital およびそのチーム)。
- ・ 創設者の戦略的役割。

この分離は、プロジェクトの透明性を高め、権限の過度な集中のリスクを制限することに寄与する。

8. ロードマップ (Roadmap)

MystReal のロードマップは、柔軟性を維持しながら進捗の構造化されたビジョンを提供するために、具体的な暦日を設けずに段階的に提示される。

フェーズ 1: 立ち上げと初期構築

- ・ プロフェッショナル ホワイトペーパーの完成と・ 公開。

- ・ 最初のスマートコントラクトの展開。
- ・ 初期資金調達の組織（プレセール、DEX 上場）。
- ・ 主要なガバナンス パラメータの定義。

Myst Capital を構成する法人は、資金調達後、調達された資本の規模に応じて段階的に設立される。

フェーズ 2: **Myst Capital** の設立と最初のプロジェクト

- ・ 初期資金調達後、Myst Capital が設立され、完全に稼働する。
- ・ この段階の優先事項は以下の通りである：
 - ・ 既に稼働している実体企業の特定。
 - ・ ターゲットを絞った買収または株式取得の実施。
 - ・ 運営管理チームの維持または委任。
 - ・ 監督、報告、および管理の枠組みの構築。
- ・ このアプローチにより、内部プロジェクトのインキュベーションや創出を行う前に、経済モデルを検証しながら、具体的な収益を迅速に生み出すことができる。

フェーズ 3: 強化と多角化

- ・ Myst の戦略と適合する分野において、複数の実体プロジェクトを段階的に展開する。
- ・ パフォーマンス追跡ツール（レポート、指標、ダッシュボード）の構築または改善。
- ・ コミュニティ参加メカニズムの拡大。
- ・ 流動性プールの強化および潜在的な追加上場措置。

フェーズ 4: 統合と拡大

- ・ 前段階の結果に対する包括的な評価。
- ・ 必要に応じて、ロイヤリティ、ガバナンス、および配分パラメータの調整。
- ・ Myst Capital 内での新規事業部門の開発。
- ・ 外部パートナーシップ（専門的、産業的、制度的）の強化。

9. リスク分析 (Risk Analysis)

Web3 と実体経済を組み合わせたあらゆるプロジェクトにはリスクが伴う。MystReal はこれらを認識し、制御することに努める。

9.1 市場リスク

- ・ MYSTR トークン価格の変動性。
- ・ 暗号資産市場全体の変動。
- ・ 緩和策: 強化された流動性、透明性のあるコミュニケーション、保証されたリターンの約束の不在。

9.2 運営リスク

- ・ 特定の実体プロジェクトの立ち上げや収益化の困難さ。 *予期せぬコスト。チームの管理および組織。
- ・ 緩和策: 段階的なプロジェクト選定、定期的な経済追跡、プロジェクトのパフォーマンスが低い場合の戦略の適応。

9.3 法的および規制リスク

- ・ 暗号資産に関する規制の進化。
- ・ Myst Capital の法人が設立される管轄区域におけるコンプライアンス要件。
- ・ 緩和策: 法的サポート、定期的な監査、規制環境が要求する場合のモデルおよび文書の更新。

9.4 技術的リスク

- ・ スマートコントラクトにおける潜在的な脆弱性。
- ・ 外部インフラ (ブロックチェーン、プラットフォーム) への依存。
- ・ 緩和策: セキュリティ監査、認められた標準の使用、ガバナンスによって監督される更新メカニズム。

10. チームとガバナンス (Team & Governance)

10.1 創設者の役割

MystReal の創設者は以下の役割を担う:

- ・ プロジェクトのグローバル ビジョンの定義。
- ・ Myst Capital の設立および実装の調整。
- ・ パートナーおよび主要な利害関係者に対する戦略的責任。
- ・ 実体経済と Web3 アーキテクチャの間の一貫性の確保。

その報酬は、Myst Capital が運営するプロジェクトの純利益に対する **2%**の成功報酬 (**Performance Fee**) の形をとり、これは戦略的役割を反映し、活動の成功に条件付けられる。

重要な立ち上げ段階における創設者の完全かつ専念したコミットメントを保証するために、プレセール総額から **6%**の活動支援手当 (**Indemnité de Portage**) が控除される。この資金枠は、創設者の生活と報酬を確保するために特別に使用され、これにより創設者はプロジェクトをフルタイムで主導し、組織が他のチームコストとは独立して財務的自立を達成するまで、運営の展開を確保することが可能となる。

10.2 共同創設者 (オプション)

積極的な共同創設者が加わる場合、以下の条件の下で、純利益の最大 1%までの報酬が規定される場合がある：

実質的かつ持続的な関与。

- ・ スキルの相互補完性。
- ・ コミュニティおよびパートナーに対する完全な透明性。

10.3 段階的なガバナンス

ガバナンスは時間の経過とともに進化することが想定されている：

- ・ 当初は、創設者および初期チームが運営上の意思決定の大部分を担う。
- ・ DAO の能力および法的構造が強化されるにつれて、戦略的決定は徐々により分散化されたメカニズムへと移行する。
- ・ 明確なルールが、各機関 (DAO、Myst Capital、創設者、共同創設者) の役割、責任、および行動手段を規定する。

11. 結論 (Conclusion)

MystReal は、以下を調和させることを目指すハイブリッド・モデルを提案する：

- ・ Web3 の透明性と柔軟性。
- ・ 実体経済活動の堅牢性と可読性。
- ・ 構造化されたコミュニティ ガバナンス。・
- ・ プロの投資から着想を得た管理規律。

ロイヤリティ、DAO ガバナンス、Myst Capital、およびベスティングをアーキテクチャの中心に据えることで、MystReal は、時間と規制要件に応じて進化できる持続可能なエコシステムを構築することを目指している。

このホワイトペーパー 4.0 は、このモデルの基礎を提示するものである。付録では、フローマップ、プロジェクト例、および補足的な技術的・法的要素について詳述する。

付録 (Annexes)

付録 1 - **MystReal** 財務フローチャート

MystReal 経済は、Web3 と現実世界の活動を結びつける継続的なサイクルに基づいている。

ステップ 1: 資金源

- ・ トークン販売 (プレセール、DEX、パートナーシップ)。
- ・ DAO 寄付 / ステーキング。
- ・ Myst Capital の民間投資。

ステップ 2: 資金配分

- ・ 資金移動: DAO から → Myst Capital へ。

Myst Capital は現実世界のプロジェクトに資金を提供する: 作業場、店舗、インフラ、サービス、エネルギー...。

ステップ 3: 利益創出

- ・ 資金提供を受けたプロジェクトは、実際の収益 (販売、サービス、生産、賃貸) を生み出す。
- ・ Myst Capital は、経費控除後の純利益を計算する。

ステップ 4: **10%** インペリアル ロイヤリティ・各プロジェクトは、純利益の 10%を MystReal エコシステムに還元する:

- ・ **40%**: バイバック + バーン (MYSTR の希少性)。
- ・ **30%**: DEX 流動性 (価格の安定)。
- ・ **20%**: DAO 報酬 / ステーキング (コミュニティへのインセンティブ)。
- ・ **10%**: 開発 / 監査 (セキュリティとイノベーション)。

ステップ 5: 再投資 残りの 88%は、他のプロジェクトへの資金提供、Myst Capital の強化、およびエコシステムの安定性向上に使用される。

付録 2 - 用語集 (Glossary)

- ・ **MystReal DAO**: トークン保有者によって管理される分散型組織。

- ・ **Myst Capital:** 実体プロジェクトを担当する、現実世界の法的な持株会社。
 - ・ ロイヤリティ (**Royalty**): 各プロジェクトの純利益の 10%。MystReal に再注入される。
 - ・ バーン (**Burn**): 希少性を高めるためにトークンを恒久的に破棄すること。
 - ・ 流動性: トークンの売買を可能にするために DEX に預け入れられた資金。
 - ・ ベスティング (**Vesting**): 24-36 ヶ月にわたるトークン解除のためのプログラムされたロック。
 - ・ 持株会社 (**Holding**): 資金提供を受ける会社を保有する法的構造。
 - ・ **MystReal** 循環経済: 実際の資金フローに基づく Web3 → 現実 → Web3 のサイクル。
-

付録 3 - リスク分析 (Risk Analysis)

A. 市場リスク: 变動性、世界経済状況、初期の限定期的な流動性。 **B. 技術的リスク:** スマートコントラクトの脆弱性、悪用または障害のリスク、BSC ネットワークへの依存。 **C. 法的リスク:** MiCA 準拠、AMF/ESMA の義務、トークンの分類。 **D. 運営リスク:** 実体プロジェクトの管理、Myst Capital の実行への依存、現実世界の活動の予測不可能性。 緩和策: 監査、マルチシグネチャ、報告、DAO の透明性。

付録 4 - **MystReal** ガバナンス マトリックス・

意思決定レベル:

1. **MystReal DAO:** 主要な決定（配分、プロジェクトの検証）。
2. **Myst Capital:** 運営の実行。
3. 創設者: 戦略的ビジョン + 2% 成功報酬。
4. チーム: 実行および技術（24-36ヶ月のベスティング）。

権限の分離:

- ・ DAO は実体プロジェクトを直接管理しない。
 - ・ Myst Capital はオンチェーンのルールを変更できない。
 - ・ 創設者はロックされた資金や DAO の資金にアクセスする権限を持たない。
-

付録 5 - 想定される法的構造 (**MystCapital**)

ステップ 1 - 資金調達後:

- ・ **Myst Capital Holding** の設立。
- ・ 各プロジェクトごとの子会社 **MYST******* の設立。

枠組み:

- ・ 透明な会計および公開監査文書。
 - ・ 欧州規制、AML/KYC 準拠、DAO 承認契約。
-

付録 6 - ラグプル防止文書 (**Anti-Rugpull**)

内容:

- ・ 必須のマルチシグネチャ。
 - ・ ベスティング終了前のチームトークンの販売禁止。
 - ・ 財務の透明性および戦略的決定の公開。
 - ・ 検証可能な流動性ロック。
 - ・ ローンチ前/後の監査。
-

付録 7 - 報酬および参加契約

- 創設者 **2%** 成功報酬: 純利益ベース、ロイヤリティには触れない、標準的な VC モデル、Myst Capital 設立後に署名。
 - 共同創設者 **1%** オプション: 共同創設者が参加する場合にのみ有効化、厳格なベスティング (24-36 ヶ月)、活動がない場合は取消可能。
-

付録 8 - 初期契約および法的文書

8.1 MystReal DAO ガバナンス憲章。 8.2 創設者 2% 成功報酬 (最終版前)。 8.3 共同創設者 1% 契約 (オプションのテンプレート)。 8.4 Myst Capital 契約 (資金調達後に作成される法的構造)。 8.5 プロジェクト / 子会社契約 (すべての MYST*****会社の基礎)。 8.6 ラグプル防止文書。 8.7 非投機協定 (MiCA/AMF/ESMA 準拠)。 8.8 MystReal 公式登録簿 (完全な法的アーカイブ)。

付録 9 - 会計、財務および報告フレームワーク

9.1 Myst Capital 会計原則: 完全な透明性 (四半期ごとの決算公開)、厳格な法人分離、定期的な外部監査、不正防止ルール。

9.2 ロイヤリティ (10%) 管理 - 公式報告: 各プロジェクトについて: 総収益 - 運営費 = 実際の純利益。 10%のロイヤリティおよびその分配 (バーン、流動性、DAO、監査) の透明な計算。

9.3 ブロックチェーン会計:

- Myst_Command ウォレット (運営管理、個人的支出は絶対不可)。
- Myst Capital ウォレット (実体会計専用)。
- すべての重要支出に対するマルチシグネチャ。

9.4 DAO 四半期追跡: プロジェクトの状況、収益と利益、支払われたロイヤリティ、実行されたバーン、流動性の状況。

付録 10 - コンプライアンスおよび規制 (MiCA/AMF/ESMA フレームワーク)

10.1 分類: 「資産参照型ではない」暗号資産 (ART-free)、リターンの約束なし。ガバナンスに関連するユーティリティ。 **10.2 コミュニケーション:** 透明、明確、誤解を招かないコミュニケーション。「保証されたリターン」などの文言の禁止。 **10.3 登録簿:** コンプライアンス登録簿、公開コミュニケーション登録簿、相場操縦防止ポリシー。 **10.4 Myst Capital 法的ガバナンス:** 資金の分離 (Web3 vs 実体 vs ロイヤリティ)。

付録 11 - 技術およびローンチ チェックリスト・(Checklist)

11.1 スマートコントラクト: 開発、バーンの統合、ベスティング、テスト。
11.2 セキュリティ: 内部および外部監査、マルチシグネチャ、ラグプル防止文書。
11.3 DAO インフラ: 投票プラットフォーム、ガバナンス憲章。
11.4 Myst Capital: 持株会社の登録、銀行口座、会計システム（資金調達後）。
11.5 DEX ローンチ: MYSTR/BNB 取引ペア、流動性ロック（12-24 ヶ月）。
11.6 コンプライアンス: MiCA ファイル、AML/KYC ポリシー。
11.7 マーケティング: ホワイトペーパー、公式サイト、ファクトシート。
11.8 最終リスト: ローンチ前の DAO 検証。

付録 12 - 國際的な法的および税務構造

A. MystHold (フランス): 親会社ホールディング。株式保有、配当受領、戦略的統制。
B. Myst Capital (フランス、MystHold 奎下): MystReal プロジェクト全体を管理する中心会社。

戦略的運営者、ロイヤリティ フローの管理。
C. Myst*** OÜ (エストニア):** 欧州運営子会社。活動開発、行政簡素化、直接再投資（再投資利益に対する非課税）。
D. Myst*** LLC (米国):** 国際子会社。米国市場、税務柔軟性、法的保護。
E. MystReal (トークン): ガバナンス、アルゴリズム報酬。会社とは法的に分離されている（ユーティリティ トークン）。

- ・ LLC および OÜ の配当 → MystHold へ。
- ・ MystHold の再投資 → Myst Capital → 子会社へ。
- ・ MystReal トークン：バーン、流動性、およびロイヤリティを通じて価値を受領（間接フロー、所得として課税されない）。

結論: 創設者、投資家、および DAO を保護し、MiCA 準拠を保証する、専門的かつ税務的に堅牢な構造（フランス/エストニア/米国）。

管轄権移転条項 (**Jurisdictional Mobility Clause**) 「MystReal エコシステムの最善の利益のため、およびその経済的持続可能性を保証するために、フランスにおける税務または規制の圧力がプロジェクトの発展または存続の障害となる場合、創設者は、登記上の事務所、法人、および運営活動を他の管轄区域に移転する権利を明示的に留保する。」

創業者からのメッセージ

ここまで読み進めてくださった皆様へ、 投資家の皆様、情熱をお持ちの皆様、 好奇心旺盛な方々、構築者の皆様、 そして、自らの時が来るのを待つ静かなる夢想家たちへ……

「夢想家」と呼ばれる人々は、往々にして世間には理解されない「内なる音楽」を抱いています。 それは、創造し、前進し、変革へと駆り立てる音楽です。 その音楽こそが、**MystReal** と **Myst Capital** を生み出しました。

私は皆様を、この冒険へと招待します。あなたのアイデアを聞かせてください。 実体的で、持続可能で、先見性のあるエコシステムの構築に参加してください。 「約束」ではなく、「行動」、「規律」、そして「野心」に基づく帝国を共に築き上げましょう。

Myst は、野心的な夢想家たちの安息の地となるでしょう。 構築者（ビルダー）たちのための活動の場となるでしょう。 ビジョナリー（先見の明を持つ者）たちのための堅固な大地となるでしょう。

私たちは共に、単なる Web3 プロジェクト以上のものを創造できます。 それは一つの「モデル」であり、 一つの「ムーブメント」であり、 一つの「帝国」です。

そして、これだけは決して忘れないでください。 「失敗」という言葉は、私たちの辞書にあるかもしれません…… しかし、「諦め」という言葉は、決して存在しません。

Myst は単なるプロジェクトではありません。 これは招待状です。 影から抜け出し、 誰よりも懸命に働き、 他者が躊躇する場所で革新を起こし、 誰もあえて築こうとしなかったものを想像するための招待状です。

未来を築こうとするすべての人を、歓迎します。

— レオ・ブーラン (**Léo Boulland**) 創業者 兼 Myst モデル アーキテクト・直接連絡

先 contact@myst-capital.io